



中国雲南省昆明市の女子高校とのオンライン交流



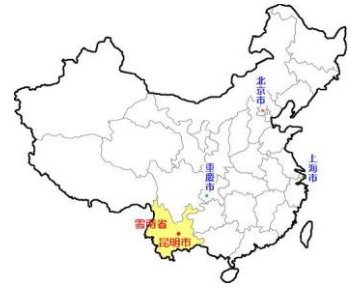
令和3年 11月 12日(金)

【はじめに】

今回のオンライン交流は、商社に勤め、何度も中国への出張の経験をもつ女性のお力添えで実現した。そのお名前は、栗田久里子さん。毎年本校の国際理解講演会（2年生対象）の講師をお願いしている方だ。

栗田さんは、認定NPO法人 日本雲南聯誼（れんぎ）協会理事長、初鹿野惠蘭（はじかのけいらん）様と懇意で、そのご縁で今回の昆明市女子中学校（日本でいう高等学校にあたる。）との交流につながった。その協会は雲南省の貧困少数民族地域のより良い環境の実現、そして更なる子供たちの成長の実現を目指して活動をしてきているという。今回の交流は、その聯誼協会と昆明市女子中学校の校長先生のご厚意で実現できたのである。

中国語の通訳資格を取得している栗田さんには、特別にこの交流の通訳としてご参加いただいた。



【実際の交流】

「秋の日は釣瓶（つるべ）落とし」。秋は日が暮れだすとあっという間に真っ暗になってしまう。周辺の国際情勢を見ても複雑で暗い話題が多い。今回の交流はそうした暗さは全くない、明るい「日中」に行われた。当日の交流は2回で、午前は3年生7名、午後は2年生10名が参加。（いずれも国際理解コース生徒）

はじめに初鹿野理事長、そして両校の校長、栗田さん、長短さまざまな挨拶があり、生徒の自己紹介へと続いた。さらに、各学校の紹介を動画やパワーポイントを用いて行い、最後に質疑応答の時間となった。通信ツールはZoom（主催者は聯誼協会）、本校の通信デバイスは2台で司会者席と生徒席に設置した。

【午前の部（3年生）】

自己紹介では、昆明の7名の女子生徒がそれぞれの民族衣装で登場。デザインや色の異なる服だけでなく、帽子や冠までさまざまだ。その感動のサプライズが冷めやらぬなか、昆明側の学校紹介ビデオが流れ始め、栗田さんの同時通訳によりこちらもその歴史を理解。そして次に本校の紹介。学校の地理的状況、概要、学校生活について生徒がパワーポイントを用いて英語で説明。ところが、それが終わるといきなり昆明側生徒が画像での説明を開始。再び予定にはないサプライズに、今度は焦る司会者。しかしそれより感動的で印象的だったのは、「中秋節」の画像と説明。日本でも「中秋の名月」と言われるが中国ではこの日が祝日になり家族で月餅（げっぺい）を食べるといふ。どうやら春節と同じぐらい重要な行事のようだ。

質疑応答では、こちらから好きな食べ物を尋ねると「お寿司」という答えが返ってきた。昆明は内陸部だ。さて生の刺身なのか焼き魚なのか気になるころであったが、そこまで深く尋ねる余裕がなかったのは残念。逆に、好きな中華料理は？と聞かれ、とっさにラーメンと答えたものの、日本と中国のラーメンは違うはず、というかすかな記憶が邪魔をして、なかなか前に進まないのがもどかしい。

【午後の部（2年生）】

既に午前中に儀式的なことは済ませていたことで、リラックスモードで進む。昆明側からは「中国の国旗を振ってもらい歓迎されている気持ちが伝わった」との声があがった。国旗の準備をしていてよかった、という心地よさで本校の学校紹介を終えると突然、司会者用PCのトラブルになり、代わりに生徒用タブレットをメインにした交流となる。しかし参加生徒10名はそうした逆境をものともせず、まるで国境を超えるかのような勢いで見境なく自席を離れ、タブレットの小さな画面の周りに押し寄せる。さながらそれは向こうに広がる大きな世界に飛び立とうとしているヒナドリのような。そのサプライズの時間を活用した質疑応答では、お互いの趣味といった個人的な話題だけでなく、日本のおとぎ話や昔話について教えてほしいなど、答えに窮する質問も。

この続きは12月に予定されている。昆明市との時差は1時間で、距離は約3400km。遠く離れてはいるが、一つの地球に住む同年代の人たちとの交流の船がいよいよ大海原に漕ぎ出したのである。‘Friendship’という名前です。



昆明女中 >



为了更好地促进中日两国高中生交流，增进友谊，加深了解，11月12日，昆明市女子中学（28中）与日本爱知县县立津岛高等学校共同举办了中日高中生线上交流会。昆女中高三年级与高二年级的18名女生参加了本次交流会。



昆明市女子中学校の Wechat(上)

